学校番号	T3015

令和８年度　家庭科

教科	家庭	科目	（学）家庭デザイン	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

家庭をデザインすることは、現在、そして未来の「生活」を幅広く豊かにすることにつながります。私たちを取り巻く社会の状況も日々変化する中で、よりよい家庭をデザインの一歩として被服を通して学習していきましょう。

2　学習の到達目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、被服と共に家庭をデザインするとともに基礎的な技術を推進し、衣食住の一環を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することをめざす。

(1) 被服構成の基礎・構成技術・被服材料などに関する知識と技能を習得させ、被服を創造的に制作する能力と態度を育てる。

(2) 自分の生活をより美しく楽しいものにするために、生活にゆとりのあるものとするための思考力や、適切な被服材料を選択する判断力、それらを説明できる表現力を養う。

(3) 用途に合った着装を実践できる力を身に付けるために,社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	被服の機能性や役割、構造などに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに創造的な技能を身に付けている。	状況や場面に応じた服装の機能性や快適性に関する課題を見つけ、思考力を深め、被服に関する職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	被服に関する諸問題に関心をもち自ら学び、社会における被服の役割や意義に、積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	手芸の基礎	①　ミサンガの作成による手芸の基礎 ②　エプロンの製作による被服製作の基礎	a:刺繍糸や針、ミシンの基本的な扱いができる。 b:刺繍針の選択やミシンの設定などを場面や材料から判断し、製作工程を考える力が身に付いている。 c:被服製作、手芸作業に興味をもち積極的に取り組もうとしている。	・提出物 ・学習状況の観察 ・手芸用品の扱い ・作品	・学習状況の観察 ・作品 ・自己評価	・学習状況の観察 ・自己評価 ・作品
	被服製作の基礎	①　筆箱の作成による手縫いの練習 ②　ペットボトルホルダーの製作によるミシンの練習	a:複雑な縫い方や作品の形状に合わせて異なる材料を縫合することができる。 b:目的や条件に応じて縫合方法を判断し、材料や工程を考える力が身についている。 c:縫合方法に興味をもち積極的に取り組もうとしている。	・提出物 ・学習状況の観察 ・作品	・学習状況の観察 ・作品 ・自己評価	・学習状況の観察 ・自己評価 ・作品
後期	被服製作応用	①　防災リュック作成によるミシンの使用の実践	a:糸通し、下糸出し、送り設定などの準備から片付けまでを一貫して行える。 b:製作状況に応じて、ミシンを用いるか、手縫いを行うかの判断力を身に付け 安全面に留意しつつ、その選択の説明が自ら行える。 c: 被服製作技術に興味をもち作業に積極的に取り組もうとしている。	・提出物 ・学習状況の観察 ・ミシンの扱い ・作品	・学習状況の観察 ・ミシンの扱い ・作品 ・自己評価	・学習状況の観察 ・自己評価 ・作品
	被服製作体験	①　被服製作(カッターシャツ)	a:１年間を通して学んだ裁縫技術や知識を活用して製作を行っているか。 b:手縫い、ミシンにおいて製作工程を思考し自らの判断で機器選択や条件設定を行いその理由を説明で表現することができる。 c:これまで学んだ事を活用して積極的に作業へ取り組もうとしている。	・提出物 ・学習状況の観察 ・作品	・学習状況の観察 ・作品 ・自己評価	・学習状況の観察 ・自己評価 ・作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度